

江戸のくらしと感染症

『医学中央雑誌』は、2023年3月、創刊120周年を迎えました。これを記念し、奈良女子大学の鈴木則子教授を講師としてお迎えし講演会を開催します。

江戸時代の人々が暮らしの中でどのように感染症の危機と向き合ってきたのか、そしてコロナ禍を経験してきた私たちはそれらから何を学ぶことができるのか、豊富な一次史料を読み解きながらご講演いただきます。

120

医学中央雑誌
創刊120周年

記念講演

10/27 (金)
14:00~15:30

Zoom
ウェビナー

聴講費
無料

事前申込

講師より

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が始まって、すでに3年半。感染症がいかに私たちの生活に大きな打撃を与えるかを実感させられました。では現在、私たちの感染症への対峙の仕方は、政治は、医療体制は、コロナ禍を経験する前とどう変わったのでしょうか？過酷な疫病経験を経ることで、感染症と共生可能な社会への展望はおのずから見えてくるものなのでしょうか？

江戸時代の人々の生活は、生命にかかわるような感染症の脅威に恒常的にさらされていました。梅毒・結核・インフルエンザ・コレラ・麻疹・疱瘡…。医療の進歩や都市生活と商業主義の展開、出版メディアの発達など、歴史的スパンで見ると、江戸時代の生活環境の変化が人々と感染症との関わり方を変えていったことがうかがえます。そして今回の話の中では、変わっていく生活環境に即した江戸のリスクマネジメントのありようにも注目したいと思います。



講師

鈴木 則子 氏

奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 教授

静岡県出身、総合研究大学院大学国際日本研究専攻博士後期課程学位取得修了。現在、奈良女子大学生活環境学部文化情報学科生活文化学コース教授。専門は日本近世史、医療社会史、ジェンダー史

主要編著書

『日本梅毒史の研究－医療・社会・国家』（共編著、思文閣出版、2005年）
『江戸の流行り病－麻疹騒動はなぜ起こったのか』（吉川弘文館、2012年）
『歴史における周縁と共生－女性・穢れ・衛生－』（編著、思文閣出版、2014年）
『近世感染症の生活史 医療・情報・ジェンダー』（吉川弘文館、2022年）

2023年刊行予定

『「ひと」とはだれか？－身体・セクシュアリティ・暴力』（『ひと』から問うジェンダーの世界史）第1巻、共編著、大阪大学出版会）

お申込み

右記のQRコード（二次元バーコード）または下記URLから当会ページにアクセスし、お一人様分ずつお申込みください。

<https://www.jamas.or.jp/news/news180.html>



申込締切

2023年10月26日(木) 10:00 まで

10月26日午後から参加用URLをお送りします。
お申込みの際はメールアドレスをお間違えのないようご入力ください。

講演概要

講師：鈴木 則子 氏
日時：2023年10月27日(金) 14:00~15:30
開催形式：Zoomウェビナー
聴講費：無料（要事前申込）
主催：NPO医学中央雑誌刊行会

動画配信

後日、当会YouTubeチャンネルでアーカイブを公開予定です。※都合により一部公開できない場合もありますので予めご了承ください。

